

# 淀川右岸水防事務組合

淀川右岸水防事務組合は、大正15年6月に当時大阪市及び三島郡に分散しておりました水害予防組合をあわせて、淀川右岸水害予防組合として設立され、昭和35年2月に現在の淀川右岸水防事務組合になりました。水防区域は、島本町・高槻市・茨木市・摂津市・吹田市・豊中市及び大阪市にまたがり、面積64平方キロメートル、河川堤防、防潮筋合わせて104キロメートルを、2900余名の団員が180万区域住民のため、水防にあたっています。

**沿革** 大正15年 6月 淀川右岸水害予防組合設立  
昭和24年 6月 水防法公布  
昭和35年 2月 淀川右岸水防事務組合に改組

**区域** 島本町(一部)、高槻市(一部)、茨木市(一部)、摂津市(一部)、吹田市(一部)、豊中市(一部)、大阪市(東淀川区・淀川区・西淀川区) 計6市1町

**管理者** 大阪市長

**分団** 分団数 45分団  
所属人数 2901人(定数)  
過去5年間の出勤回数 19回  
平成26年8月9・10日の台風11号に伴う、水無瀬川・檜尾川・芥川・安威川の警戒監視。大阪市西淀川区内(防潮区)にて淀川大橋・神崎川右左岸・左門橋の鉄扉を10日、午前3時～9時の6時間に亘り閉鎖を行う。

淀川右岸水防事務組合は発足以来90年の歴史を持ち、永きにわたり淀川や淀川支川・西淀川区一帯に広がる低地帯地域の地域住民の生命と財産を守ってまいりました。今後も、たゆまぬ訓練を通じて水防活動の練度を維持し、水災害防御に努めてまいります。

防御区域図



防潮区域図



# 淀川右岸水防事務組合

## ～団員の日常と水防活動～

普段は古くから地元淀川区にて酒屋さんを経営されていますが、実は、災害時には分団長として仲間を引っばってくださいます。  
災害時には災害から守ってくれる、頼もしい人です。  
もちろん、災害が無い時にも、私たちの生活を支えてくれています。



淀川第5水防区  
分団長  
橋本秀治さん



永年水防団員として、水災害から地域住民の生活を守ってまいりましたが、入団当時に比べると堤防改修工事が進んだ現在では、水害による被害はほぼ皆無に等しいといった印象があります。

近隣住民の記憶から、水害の記憶が薄れていくのも仕方がないと感じる一方で、災害は忘れた頃に来ると言います。日頃の水防訓練を通じて、常に水災害に対応できるように心がけています。自分達の街は自分達の力でできる限り守って行きたいと考えています。

日ごろから、災害時の状況を考慮して迅速に水防活動が出来るよう、取り組んでいます。  
実際の災害時に行われることを地域住民の方にも見て頂くことで、水防事務組合を身近な存在として感じて頂きたいと  
思います。



西淀川第6水防区  
分団長  
藤原正信さん



最近は、「水防団？」と言う方々が多く、河川の改修整備が整っている結果であると感じます。水災害の減少は、水防団の一員としてまた、地域住民としてありがたい限りです。

しかし、如何に防潮堤等の改修整備が整っても、近年は想定を越えた水災害や地震に伴う津波が見受けられます。改めて、水防団の意義は地域住民の生命・財産を守る事だと痛感し、今後も人々の日常生活を支えられるよう、日々の訓練を通じて受け継いだ水防技術を若い世代へ受け継ぎ、次世代へ繋げて欲しいと思います。

# 淀川左岸水防事務組合

淀川左岸水防事務組合は、わが国で最も早く大正8年11月に淀川左岸水害予防組合として枚方市に設立され、昭和33年12月に現在の淀川左岸水防事務組合になりました。水防区域は、枚方市・寝屋川市・四條畷市・門真市・守口市・大東市・東大阪市及び大阪市にまたがり、面積190平方キロメートル、河川堤防、防潮筋合わせて135キロメートルを、約5000人の団員が210万区域住民のため、水防にあたっています。

**沿革** 大正 8年 11月 淀川左岸水害予防組合設立  
昭和24年 6月 水防法公布  
昭和33年12月 淀川左岸水防事務組合に改組

**区域** 枚方市(一部)、寝屋川市(一部)、四條畷市(一部)、門真市、守口市、大東市(一部)、東大阪市(一部)、大阪市 東成区・鶴見区・城東区・旭区・都島区・北区・福島区・此花区・西区・港区・大正区・生野区・中央区(一部)・天王寺区(一部)・浪速区(一部)

**管理者** 大阪市長

**分団** 分団数 55分団  
所属人数 4959人  
過去5年間の出動回数 8回  
平成24年6月の台風4号で、潮位上昇により、此花区、港区、大正区の鉄扉の開閉操作、及び防潮堤の巡視等。

組合区域図



大正8年11月に淀川左岸水害予防組合として設立され、今年で98年目となる、全国で最も歴史のある水防組合です。

# 淀川左岸水防事務組合 ～団員の日常と水防活動～

水防団には女性団員の方もおられ、普段は事務員の仕事をしていますが、実は、災害時には無線通信等の大切なお仕事を担当しています。

災害時には災害から守ってくれる、頼もしい人です。もちろん、災害が無い時にも、私たちの生活を支えてくれています。



港区防潮本部  
佐藤繭香さん



平成28年にたまたま知り合いに声をかけられ、水防団に入団しました。私が住んでいる町は、昔大きな水害があった地域なので、自分の住んでいる町や家族を自分達の力で守れるようになりたいなあと思っています。

日ごろから、災害時の状況を考慮して迅速に水防活動が出来るよう、取り組んでいます。

実際の災害時に行われることを地域住民の方にも見て頂くことで、水防事務組合を身近な存在として感じて頂きたいと思います。



鷺洲分団分団長  
中野孝義さん



水防団に入団して43年目になり、分団長を務める鷺洲水防区では、鉄扉の操作や区域内的の堤防の防御を行っております。

これまでは自分達の住む町を自分達の手で水害から守ることができましたが、現在は水防団では団員の高齢化が進み、水防技術を継承する担い手が不足してきております。「南海トラフ地震」に備える為にも、普段はあまり馴染みのない水防活動に関心を頂ければと望んでおります。

水防活動には筋力を必要とする作業も多くありますが、無線通信や鉄扉の操作に関する伝令等の作業もありますので、男女の別なく、普段は働きに出ている方、主婦や学生の方にも、水防活動に興味を持たれた方は是非水防の担い手となっていただきたいと思います。

# 大和川右岸水防事務組合

大和川右岸水防事務組合は、昭和28年5月に大和川右岸水害予防組合として大阪市に設立され、昭和33年12月に現在の大和川右岸水防事務組合になりました。水防区域は、柏原市・八尾市・東大阪市・松原市・藤井寺市及び大阪市にまたがり、面積81平方キロメートル、河川堤防、防潮筋合わせて37キロメートルを、1500余名の団員が110万区域住民のため、水防にあたっています。

**沿革** 昭和24年 6月 水防法公布  
昭和28年 5月 大和川右岸水害予防組合設立  
昭和33年12月 大和川右岸水防事務組合に改組

**区域** 大阪市 生野区(一部)・平野区・東住吉区・住吉区(一部)・住之江区(一部)・西成区(一部)、八尾市(一部)、東大阪市(一部)、柏原市(一部)、松原市(一部)、藤井寺市(一部)

**管理者** 大阪市長

**分団** 分団数 17分団  
所属人数 約1500人  
過去5年間の出動回数 8回  
平成28年9月20日の台風16号での大和川水位上昇による巡視

大和川右岸水防事務組合は60年以上の歴史を持ち、その間大和川及び湾岸地域の住民の皆様生命と財産を守ってきた実績があり、その練度はたゆまぬ訓練において維持されている。今後とも地域の皆様とともに水災防御に務めてまいります。

防御区域図



防潮区域図



# 大和川右岸水防事務組合 ～団員の日常と水防活動～

普段は喫茶店を経営していますが、実は、災害時には水防団員として地域を守る活動に参加しています。  
災害時には災害から守ってくれる、頼もしい人です。  
もちろん、災害が無い時にも、私たちの生活を支えてくれています。



平成28年12月に水防団に入団し、今年4月に開催された初任者訓練に参加しました。初めて土のう作りや積み土のう工を体験しましたが、女性でも十分水防活動が出来ることを実感しました。

水防活動は、災害時に地域の方々の「命と財産を守る」という大切な仕事であることを再認識しました。私でも役に立つ水防団員になっていきたいと思います。

住吉川分団班員 垂水奈那さん

日ごろから、災害時の状況を考慮して迅速に水防活動が出来るよう、取り組んでいます。  
実際の災害時に行われることを地域住民の方にも見て頂くことで、水防事務組合を身近な存在として感じて頂きたいと思います。



水防団に入団して約50年が経ちます。現在、分団長として災害時には区域内的の堤防の防御や鉄扉の開閉操作等を行っております。

今までいろいろな災害を経験しましたが、近い将来必ず来ると言われている東南海地震に対しても、万全の水防態勢で臨むために、日々訓練に努めています。

今後とも地域と共に歩み、自分達の町は自分達で守れるようにしたいと思います。どうか皆様も水防団に入団頂き、水防活動の担い手として参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

南津守分団長 赤松元昭さん

# 恩智川水防事務組合

昭和29年5月東部恩智川水防事務組合を設立後、水防法の改正により、昭和34年5月恩智川水防事務組合となり、発足以来町村合併を経て、現在は八尾市及び東大阪市による水防組合として、恩智川流域面積19平方キロメートル、防御堤防延長87キロメートルを800余名の団員が区域住民15万人のため、水防にあたっています。

**沿革** 昭和24年 6月 水防法公布  
昭和29年 5月 東部恩智川水防事務組合設立  
昭和34年 5月 恩智川水防事務組合に改組

**区域** 八尾市及び東大阪市域の一部で、南は柏原市界から北は大東市界までの南北約10km、東は旧国道170号線（東高野街道）より、西は府道八尾茨木線までの約2kmで、この区域内の恩智川及び流入する支川を水防区域としています。

**管理者** 東大阪市長（平成28年9月1日現在）

**分団** 分団数 25分団  
所属人数 803人  
過去5年間の出動回数 0回  
八尾市域・東大阪市域において、下水道の整備率が高く、雨水貯留施設の整備も進んでいることから、過去5年間の出動回数はありませんが、近年は、集中豪雨やゲリラ豪雨等も多くあることから、今後も雨水貯留施設の充実が求められており、組合として不測の事態に備えての活動を計画的に進めています。

## 水防倉庫の再編整備

平成27年度に恩智川水防事務組合水防倉庫再整備計画を策定し、木造水防倉庫の改廃を基本に16棟の水防倉庫を9棟（八尾市域4棟、東大阪市域5棟）に集約するもので、平成28年度は八尾市域3水防倉庫を1水防倉庫に、東大阪市域は2水防倉庫を1水防倉庫に建替えました。今後、平成29・30年度に東大阪市域の3水防倉庫を1水防倉庫に建替え、31年度に八尾市域の2水防倉庫を建替える予定です。

平成29年4月22日実施 水防訓練



整列風景



杭打ち積み土のう工



堰板工



釜段工